

POTTプログラム研修 in 北海道医療大学

日時: 2017年3月25日(土曜日)10時30分~17時30分

参加者: 37名 技術伝承を期待する看護教員、専門看護師、認定看護師、臨床看護師で指導的な立場の方達等

主催: 山田律子先生 講義: 迫田綾子

演習サポーター: 竹市美加・石崎千順・渡邊渉・赤澤美樹子・太田充・竹内富貴・近藤泰子・(神野・高橋)

北海道在住の摂食嚥下障害看護認定看護師と広島、大阪から駆け付けました!



実習室より眺める風景(35年ぶりの春雪)

迫田先生率いるPOTTチームが初めて北海道の地に立ちました。北海道では6名の同窓生が待っていました。短時間でしたが、皆で練習をし、演習に臨みました。演習では山田律子先生が患者さん役になってくださり、率直な感想を言っただき、演習の素晴らしい導入になりました。丸一日の研修でしたが、あっというまに時間が経ちました。北海道は寒かったけど、あったかい♡
近藤記

明日からの実践に生かしたい。
同僚に伝えて、仲間を増やす!
⇒北海道でPOTTが広がる大きな一歩になりました。感謝!



参加者振り返り

- ・目から鱗だった。
- ・普段良かれと思ってやっていたことが、違っていた。
- ・体験して、いかに苦痛で不安定な姿勢だったかが分かり、ショックだった。それを1日3回、食事のたびにしていたかと思うと、患者さんに申し訳ない。
- ・技術が未熟では、食べられないことを知った。
- ・背抜きを通じて、手の温かさを感じ、安心感につながった。
- ・近くで介助していたら見えなかったことが、正面から少し離れてみると、よく分かった。
- ・身近にある小物を少し工夫することで、体位が安定し、安楽になることが分かった。
- ・ひとつひとつの手技にエビデンスがあり、それが安楽に繋がると、患者さんの食べたい気持ちを支えることができると分かった。



午前中は講義。

実際に昼食を食べながら嚥下の5期を体験と食事介助をしています。



山田律子先生が患者役! 体験するとポジションングの重要性がよく分かった! と...



時間も忘れて、真剣に演習!
ベッド上ポジションングの背抜きから足抜きへと、やがて手を当て!